

第20回 与謝野晶子短歌文学賞 入賞作品

篠弘 伊藤一彦 今野寿美 選

文部科学大臣賞

キュロットをはいていた夏 恋をするようにはできていなかった胸

奈良市 山上 秋恵

ズボン型スカートのキュロットは、いわば中性的ファッション。さらに下三句が添えられ、活発な少女のイメージが立ち上がる。恋の兆しすらなかったとする回想の輪郭は明朗で、どことなく可憐な華やぎも匂う。そこがいい。

産経新聞社賞

子らの漕ぐぶらんこのおの揺れながら時折横に並ぶことあり

堺市西区 平間 美幸

ぶらんこのすべてに漕ぐ子が乗っているだけで景気がいいが、動きはそれぞれ。それでも横並びとなる一瞬がある。そこに気づいた目線が確かな内容を引き出した。幼い個性にも静かな一致点はあるのかもしれない。

選者賞 篠弘選

コンビニは夜の海中水族館若者するりとドアに吞まれる

和歌山県橋本市 浦木 逸子

選者賞 伊藤一彦選

駆け引きも億劫になる花ざかり乞われるままの恋をしている

大阪市東淀川区 鈴木 晴香

選者賞 今野寿美選

後悔はしなかったことでありまして出来なかった事ではありませぬ

福岡県新宮町 岸原 修

大阪府知事賞

やわらかき訛とあらかし訛とが混じる災害支援の現場

宮崎市 本田 皓子

京都府知事賞

もうすこし心開けばよかったと今朝積む雪の白さに思う

愛知県稲沢市 柴田 通子

堺市長賞

とかとかとハイヒールの音ついて来る妻の小言の続きのように

兵庫県西宮市 桜田 一夫

E H賞

ひらくまで美しい夢みていたか日傘が売り場で目を覚ます夏

大阪府岬町 岡野 はるみ

「三輪山まほろば短歌賞」姉妹賞

トローチの穴に舌先あそばせて胸の疼きをあいまいにする

奈良県天理市 川北 昭代

「角川全国短歌大賞」姉妹賞

三人の孫よりちひさくなる頃にまるい眼鏡の似合ふ気がする

香川県善通寺市 子川 多栄子

「河野裕子短歌賞」姉妹賞

ケータイも心も電源オフにして杉の枝打つ斧響かせて

徳島県阿南市 小畑 定弘

「山川登美子記念短歌大会」姉妹賞

野球帽の裏に〈男〉と書きし子は最後の夏の代打に立てり

川崎市中原区 大平 真理子

「城崎短歌コンクール」姉妹賞

図書館の「明星」二号に曾祖母の和歌をみつめて指でなぞりぬ

静岡市駿河区 高橋 香子

関西テレビ放送賞

接吻やキスではなくてキッスと言う父との恋を語りいる母

大阪府吹田市 前田 文乃

ラジオ大阪賞

イベントの一つのような明るさに子ら語りいる我の葬儀を

和歌山県橋本市 赤坂 文代